

『御使いが告げたメッセージ』

'22/12/25

聖書箇所: ルカの福音書 2 章 10-12 節 (新約 p.109)

皆さん、今日は、クリスマスおめでとうございます！今日、私たちは、このクリスマスという日をお祝いするに当たって、イエス・キリストがお生まれになった日に焦点を当てて、一緒に思いをはせていきたいと思えます。…と言いますのも、この「クリスマス」という言葉には、イエス・キリストの、「キリスト」という単語が含まれていることから分かります通り、そもそも、クリスマスとは、イエス・キリストの誕生をお祝いし…、そのイエス様がお生まれになった意義を知るためにある！と言っても過言ではないからです。

このクリスマス…、つまり、イエス・キリストがお生まれになったのは、今から約 2000 年も前の出来事です。それが今や、世界中でお祝いされていますのは、当然、「それだけの理由がある」からです。もし、皆さんも、このクリスマスの素晴らしさを…、イエス・キリストの素晴らしさを、本当の意味で理解했다ら、間違いなく、皆さんの人生もまた、大きく変えられます。ですから、どうぞ、今からしばらく、聖書のみことばと、そのみことばが私たちに教えてくれている内容とに耳を傾けてくださいますよう、心からお勧めいたします。

命題: 御使い(天使)が告げたメッセージは、どのようなものだった？

実は、イエス様がお生まれになった、その日に関する聖書の記述は、ルカ 2 章にしかありません。そのルカ 2 章を見ますと、イエス様がお生まれになった、その日、生まれたばかりのイエス様のところに、羊飼いたちがやって来たという話は、あまりにも有名です。そこで今日は、そのルカ 2 章の中に記されてある、御使いが羊飼いたちに告げたメッセージに注目して、聖書のみことばを学んでいきたいと思えます。聖書のみことばは、ルカ 2:10-12 で…、今日の週報にも印刷してありますので、そちらの方をご覧くださいませ。まずは、私の方で読ませていただきます。

10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。

11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

I・恐れる ことはない！

今、お読みしました聖書のみことばは、今から 2000 年とほんの少し前に起こった、まさに、「世界で初めてのクリスマス」…、イエス・キリストがお生まれになった、その日の夜、神の御使いが現れて、夜番をしていた羊飼いたちに語ったメッセージであります。その時、御使いが発した言葉の、1 番最初が、『**恐れることはありません！**』というものであります。

“**恐れる**”ことはない！それが、神様が遣わされた御使いの発した、1 番最初のメッセージでありました。ところで、皆さんには、何か恐ろしいものがないでしょうか？実は、この時、羊飼いたちは、羊の番をするために野宿していました。そこに突然、昼間のような、まぶしい光が周りを照らしたのです。だから、羊飼いたちは恐れ感ったわけです。

●私たち人間の 傾向 と 過ち

この時、羊飼いたちは、直前の 9 節にあるように、突然に、『**主の栄光が回りを照らした**』ので、ひどく恐れられました。…と言うのも、羊飼いたちには、何が起こったのか分からなかったからです。羊飼いに限らず、私

たち人間は、何か、自分が経験したことが無いことや得体の知れないものを恐れます。2000 年前の、この当時、「明かり」と言えば、ロウソクや松明(たいまつ)、炎といったものでしょうか？とにかく、この時代には、電気も…、スポットライトも、LED などありませんでした。そんな時代の…、恐らくは、真夜中に、突然、『**主の栄光が回りを照らした**』わけで…、羊飼いたちが、『**ひどく恐れた…**』(ルカ 2:9)というのは、至極、当然のことであると思えます。

彼らに限らず、私たち人間は、すぐ何かに恐れを抱いてしまうような、「弱い存在」ではないでしょうか？皆さんは、どうか分かりませんが、私の場合、あの阪神・淡路大震災と東日本大震災以降、地震が恐ろしくなりました。それまでは、少々の地震くらいなら、逆に楽しんでたように思うのですが、あの震災以降では、ちょっとした地震でも、「ピクッ」となってしまいます(苦笑)。また、昔は、それほどでもなかったと思うのですが、私の場合、高い所が、だんだんと恐ろしくなってきました…、間違いなく、高所恐怖症だと思っています。

でも、こういったような…、何かに恐れを感じるといったようなことは、私だけではありません。例えば、2012 年の 12 月には、(マヤ文明の暦から)「人類が滅亡する！」などと言われて、たくさんの本が出版されたり、映画が公開されたりして、世界中が、その噂に惑わされたことを皆さんは覚えておられますか？…また、それだけではありません。1999 年にはノストラダムスの大予言…、また、2000 年には、「古いタイプのコンピュータが、西暦 2000 年という年を認識できないことから来る誤作動を起こして、世界的な大混乱が起こる！」というようなことが言われた時もありました。あるいは、10 年ほど前に、韓国のカルト集団が、「何月何日に、世の終わりが来る！」などと言って、世間を騒がせたこともありました。

このように、私たち人間は皆、先のことが分からないが故に、いろんなことで不安を覚えるからでしょうか、様々なことで縁起を担ごうとします。…例えば、「13 日の金曜日」を何か縁起の悪いものと考えたり…、あるいは、カレンダーに書かれてある大安や仏滅などの六曜の他…、毎朝、テレビで放送されているような運勢など、私たちの周りにそういったような情報が溢れているのは、多くの人たちが、何かしら、「恐れ」を持っているからではないでしょうか？

例えば、皆さんは、「菅原道真(すがわらのみちざね)」公という、1000 年以上前の人物のことを祭った「天満宮」を、よくご存知だろうと思えます。これまた、皆さんも、ご存知だと思いますが、一体どうして、菅原道真公が祭られるようになったかと言いますと、菅原道真公が失脚と言うか…、時の大臣であった藤原時平(ふじわらのときひら)によって、偽りの疑いを掛けられて…、左遷された挙句、亡くなっていったわけですよね？その菅原道真公が亡くなった何年か後、彼のことを陥れた藤原時平が病死したことに加え…、京の都で、大きな自然災害が相次いだことなどによるそうです。つまりは、菅原道真公による「たたり」を恐れた者たちが、菅原道真の怒りをなだめるために、お祭りをしたことが、そもその始まりだ、ということなのです。

この天満宮に限りません！日本にある多くの神社などは、そういったような恐ろしいものをなだめたり…、あるいは、封印したりするために祭られている、というようなものが少なからず存在しています。つまりは、ある意味において、恐ろしかったからです！

●聖書のみことばが教える、真の神様 とは？

でも、皆さん、どうか、真剣に考えてみてください！本当に、それらは、「神様」なのでしょう？それらの神社は、私たちが祭ったり、あるいは、願い事を捧げたりするべき存在なのでしょう？…聖書のみことばは、「違う！」と言います。確かに、菅原道真公は、たくさんの才能や数多くの功績に恵まれた人物であったようです。しかし、聖書は、「如何なる人間であっても、それは神ではない！」と教えます。…と言いますのは、私たち人間が、本当に神様！と呼ぶべき存在は、「私たち人間のことだけではなく…、すべてを造られた創造主なる御方だけ」だからです！だから、私たちクリスチャンは、造り主である神様以外のものを

礼拝したり…、あるいは、拝んだりしないのです。それはつまり、それらが、正真正銘の本物の神様ではないからです。

聖書のみことばは、「私たち人間が礼拝を捧げるべき御方は、すべてを造られた真の神様だけである！」と教えます。神様とは、私や皆さんのことを造ってくださった御方であって…、私たちのご先祖様ではありません。確かに、聖書のみことばは、私たちが、自分の両親や先祖を大切にすべきことを命じています。しかし、そのこととは別に…、果たして、私たちの両親やご先祖様が、あるいは、素晴らしい功績を遺した偉人たちが、本当に、神様なのでしょうか？ 私たちは、一人ひとり、そのことの答えを出さないといけないのです！

今日のみことばで、神様から遣わされた御使いは、『**恐れることはありません！**』と言ってくださいました…。このように、真の神様とは、本来、恐れるべき存在ではありません。だって、本当の神様とは、私たち人間のことを造ってくださった…、言わば、父親のような存在なのですから！ そうじゃありませんか？

実は、私たち人間の最も恐れているものが、「死」ではないでしょうか？…と言いますのも、誰も、この死に対しては勝利できないからです。死は、私たち人間にとって、いつ訪れるか分からない恐怖であり…、私たちから多くの希望を奪い取ってしまうと同時に…、多くのものを強制的に終わらせてしまうものでもあります。…でしょ？…ひょっとしたら、今日のみことばに出てくる、この羊飼いたちも、主の栄光が回りを照らした時、自分たちの死を予期したのかも知れません。恐らく、私が、地震を恐れるのも…、また、高い所を嫌うのも、多分は、その先に、「死」というものを意識しているからだろうと思います。「死」というものは、それほどまでに、身近で…、しかも、大きな影響を、私たちに及ぼしているのです。

しかし、今日の御使いは、羊飼いに言うわけですが、『**恐れることはありません！**』って…。…と言いますのも、御使いは、決して、羊飼いたちに害を加えるために来たものではなかったからです。いえ、御使いだけではありません！ 天の神様もまた、私たちに対して、こうおっしゃってくださっています、「恐れるな！」って…。聖書の中には、何度も、そういった言葉が記されています。

どうぞ、できましたら、**ルカ 12:6-9 をご覧くださいませ**？そこには、このような、イエス様のお言葉が記されています。『6 五羽の雀はニアサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。7 それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさん雀よりもすぐれた者です。8 そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。9 しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。』

⇒ここでイエス様が教えてくださったように、天の神様もまた、私たちに害を加えるような御方ではありません！ 本当の神様は、愛と恵みとに満ちあふれた、偉大なる御方なのです！ だから、私たちは、むやみに、神様を恐れる必要はありません。もしも、皆さんが、この聖書のみことばを学んで、真の神様のことを、もっともって知ってくださったら、間違いなく、神様のことをむやみに恐れる気持ちは無くなっていきます。もしも、**私たちが神様のことを恐れるなら、それは、私たちが神様のことを知らないか…、あるいは、私たちの側に、何かやましいことが有るからです。…**と言いますのは、天の神様はすべてを御存知で…、神様は、私たち人間に対して、「ふさわしい報いを与えられる」からです。

ヨハネ伝のみことばは、このように教えてくれています…。『16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。』(ヨハネ 3:16-17) って…。⇒真の造り主であられる、本当の神様は私たち人間のことを愛し…、また、今も氣遣ってくださっています。神様の、皆さんに対する愛は、それこそ…、神のひとり子さえ、惜

まずに与えてくださるほどの大きな愛であります。だから、天の神様は、私たち人間に1番必要な救い主を与えてくださったのです。そのことを記念し、お祝いするのが本当のクリスマスなのではないでしょうか！

II・すばらしい「喜び」を知らせに来た！

どうぞ、もう1度、今日のみことばをご覧ください。ここで、御使いは、『**恐れることはありません。**』の後に、こう続けています、『**今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。**』って…。そのすばらしい「喜び」の内容が、11節に書かれています。どうぞ、11節をご覧ください。そこをご覧くださいませと、『**きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。**』と書かれています。

①『きょうダビデの町で…』

御使いが言ったのは、『**きょう…**』、つまり、まさに、この日です！ 2000年前の、この日に…、救い主がお生まれになった！ ということをお話してくれています。これこそ、先程言いましたように、「世界で最初のクリスマス」ということになります。確かに、残念ながら、今の私たちが、この日のことを、紀元前何年の何月何日というような形で知ることはできません。でも、大切なのは、その日が何年の何月何日かということよりも…、間違いなく、救い主が私たちに与えられた！ ということなのではないでしょうか？

それだけではありません。救い主の誕生は、イエス様がお生まれになる何百年も前から、神様によって預言されておりました。だから、御使いは、ここで、『**ダビデの町で…**』と言ったのです。この、『**ダビデの町**』と言いますのは、旧約時代の偉大な王様であった、あのダビデ王が生まれた町である、「ベツレヘムの町」のことを指しています。その証拠に、マタイ 2 章に記されてある、東方の博士たちが、キリストを探しにやって来た時、学者たちは、すぐに、キリストが生まれるはずの町を言い当てることができたのです。

イエス・キリストは、所謂、大勢の人たちから注目されるような、大金持ちの名家にお生まれになったわけではありません。また、イエス様は、後々になってから、初めて注目されたような人物でもありません。イエス様こそ、**その誕生前から…、お生まれになる何百年も前から、**その神様によって預言されていた、来たるべき「約束の救い主」であられたのです！ そのことを、御使いは教えてくれるわけですね。

②『あなたがたのために…』

その次に、御使いはこう続けます、その救い主は、『**あなたがたのために…**』、お生まれになった！ って…。イエス・キリストは、ここに居る私や皆さんのために生まれてくださったのです。その証拠に、イエス様の歩みや…、また、イエス様の教えは、民衆たちのために尽くす！ ご自身を捧げる！ というものであります。そうじゃなかったでしょうか？

例えば、イエス様は、ある時、12弟子たちに対して、こんなことを教えられました。『**マタイ 20:25-26、『25…異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。』**』って…。実際、イエス様の行動は、そのすべてが、父なる神様に仕え…、また、大勢の者たちの必要に応えるものであります。そうでしょ？

その教えの後で、イエス様は、こうおっしゃいました。「ご自分が来たのも、人に仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、**多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためである**と同じです。」(マタイ 20:28) って…。何と、イエス様は、ご自分のいのちを犠牲にするために、この世に来てくださった！ そう言うのです。

だから、イエス様は十字架に磔にされる前、あらぬ罪で裁判にかけられた際も、ご自分のことを一切弁護されなかったのです！実際、ある時、イエス様は弟子たちに、「わたしは、自分でいのちを捨てるのだ…」(ヨハネ 10:15)ということをお教えました。そのように、イエス様はご自分の意志で、私たちのために、そのいのちを犠牲にしてくださいました。

そのイエス様は、ご自分のいのちを犠牲にするに当たって、『贖いの代価』という言葉が使われました。この、『贖いの代価』とは、通常、奴隷を買って…、自由にするために支払われるべき金銭を表すために使われる言葉でした。つまり、イエス様はご自分のいのちをもって…、多くの者たちを奴隷から解放するのだ！ということをお教えたのです。

イエス様は、『まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。』(ヨハネ 8:34)ということもお教えました。聖書が教えるところの罪とは、所謂、刑法に触れるような犯罪行為と言うよりも…、神様の喜ばれない言動や、神様の忌み嫌うような考えなどを言います。私たち人間は、それが悪いことだと分かっているにも関わらず、そういった罪を犯さずにはいられません…。それこそ、私たちが罪の奴隷である！ということの証しなのです。

しかも、この聖書は、罪を犯さない者は居ない！すべての人間が、神の前に罪人である！と訴えます。残念ながら、私も、ここにおられる皆さんも、例外なく、神の前には罪人として、本来なら裁かれるべき運命にあります。でも、だからこそ、私たち人間には「救い」が必要なのです！

③『救い主がお生まれになりました。』

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻っていただきますと…、この御使いは、今日、救い主がお生まれになりました！ということをお教えました。イエス様こそ、私たちを、その罪の奴隷から…、また、罪の裁きから救うために来てくださった、「約束の救い主」なのです！

確かに、聖書のみことばは、イエス様ありがたい教えや数々の奇蹟…、つまり、多くの病を癒したり…、生まれつき目の悪い人の目を直したりされた、あるいは、死人でさえも生き返らされた！ということをお教えています。しかし…、イエス様の最大の特徴は、何よりも、この救い主であられる！ということにあります。このことが分からないと、私たちは、本当の意味で、イエス・キリストを知っている！イエス様と私とは、個人的な関係にある！ということではできません。

確かに、世の中の、数多くの人たちが、イエス・キリストという存在を知って“は”います。確かに、多くの人は、そのイエス様が最期には、十字架にかかって死んでくださったというストーリー？を知っています。また、イエス様の発せられた有名な教えなどを、多くの人たちは知っているでしょう。しかし、世の多くの人たちは、このイエス様こそ、真唯一の救い主であられる…、イエス様が十字架にかかってくださったのは、私の罪を負って…、この私の身代わりになって裁かれてくださったからだ！ということをご存知ありません。実は、それこそが、イエス様のなしてくださったお働きの中で1番重要なものであり…、かつ、私たちが1番に信じ、受け入れなければならない、大切なポイントなのです。

…と言うのも、私たち人間は、どれだけ努力をしても、自分で自分のことを救うことができないからです。皆さんも、かつて、「もう、これからは正しく生きていこう！もう2度と、同じ過ちは犯さないでおこう！」などと決心されたことがあるのではないのでしょうか？でも、果たして、私たちは、いくら心で、どれほど強く願ったとしても…、あるいは、色々な修行を積んだところで…、完全に聖く、正しい人間になることができるのでしょうか？…聖書は、それができない！と言います。だから、私たちには、救いが…、救い主が必要なのです！

Ⅲ・この方こそ **主** キリストです！

どうぞ、今日のみことばの 11 節の最後、『この方こそ主キリストです！』という御使いの言葉に注目してください。この御使いは、このイエス様こそが、真の救い主…、つまりは、唯一の救い主であられる！ということをお教えています。しかし、この御使いは、「この方こそキリストです！」とは言いませんでした。御使いは、イエス様のことを指して…、『この方こそ主キリストです！』と言ったのです。つまり、イエス様は、ただの救い主…、ただの身代わりなのではありません…。あなたが、イエス様から救いを受けるためには、イエス様のことを、あなたの“主(=主人)”としないといけないのです。

●お生まれになったお方は、本物の神 であられる。

御使いは、この時にお生まれになったイエス様のことを、『この方こそ主キリストです！』と言いました…。この『主』(κύριος)という言葉は、奴隷に対しては、その主人を指し…、妻に対しては、その夫を指します。また、この言葉は、新約聖書では、かなりの確率で、真の神様を指す時に使われてある言葉です。つまり、このイエス様は、救い主であられると同時に、真の神でもあられ…、また、私たちの主人でもあられるのです。御使いは、この時にお生まれになったイエス様のことを、『主』、つまり…、ご主人様である！と言いました。私たち人間が信じ従うべき御方は、このイエス・キリストだけである！ということをお教えたのです。

聖書のみことばは、私たち人間が信じ仕えるべきなのは…、究極的には神だけでなくはならない！と教えます。それはつまり、御使いの語ったメッセージを言い換えますと、このイエス様は、真の神である！ということでもあります。

神であられる御方が、何と、人間となられて、この地上に来てくださった…。それがクリスマスです！そのことを、ピリピ 2 章のみことばは、こうお教えています。ピリピ 2:3-8、『3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。4 自分のことだけでなく、他の人のことも顧みなさい。 5 あなたがたの間では、そのような心構えていなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられず、7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、8 自分を卑し、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。』

⇒今読んだみことばには、『他の人のことも顧みなさい！』と教えられておりました。…と言いますのは、私たち人間は、すぐに、自分のことばかりに目が行ってしまうからです。私たち人間はすぐ、自己中心や「自分こそが1番正しい！」という風に考えてしまいがちです。しかし、私たちの傾向とは逆に、イエス様は、神であられるのに…、そのことに固執しないで、神としての地位や特権などを捨てて…、人間となって、この地上に生まれて来てくださいました。しかし、それは、もちろん、イエス様が神様でなくなったということではありません。

イエス様は、この地上において、神としての特権などをすべて捨てて…、私たち人間に仕え、私たちの必要を満たすために、必要なことをしてくださいました。イエス様が、十字架にかかってくださったのは、私たちに罪の贖いが…、罪の赦しが必要であったからです！実に、そのために、イエス様は、自ら進んで、あの十字架へ向かっていかれて、大勢の者たちから辱められ、あざけられて、死んでいってくださったのです！

皆さん、これこそ、聖書が教えるところの「アガペーの愛」、最高の愛です！果たして、私たちは、この神様の愛を証しし…、その愛を実践しようとしているのでしょうか？実に、そういったことが、クリスチャンのお一人おひとりに問われているのです。

●人を救うことのできる、本物の信仰とは？

近頃は、大勢の方たちがクリスマスやキリスト教に対して好意的であるせいも、今では、結婚式を教会で挙げたからとか、その昔、教会に行っていたから、ということで、さも、自分がクリスチャンであるという勘違いをしてしまう人が少なからずいらっしゃる、ということです。しかし、神様のみことばである聖書は、信仰というものが、それほど、たやすいものであるとは教えていません。

良いでしょうか、皆さん…。この聖書のみことばが教えてくれている、本物の信仰とは、結婚式や洗礼式などの儀式や何かの行ないによって得られるものではありません。あるいは、また、本物の信仰とは、聖書の知識によっても得られるものでもありません。本物の信仰とは、あなたとイエス様とが、どのような関係にあるか？ということが、1番重要なのです。

つまり、そのことを言い換えますと…、あなたにとって、このイエス様が『主』、つまり、あなたが信じ従うべき、1番の存在となっているかどうか？ということなのです。果たして、皆さんは、このイエス様を信じ、イエス様のことを1番のご主人様としておられるでしょうか？それとも、あなたは、自分自身を含む…、イエス様以外のものを、1番として生きておられます？どちらでしょう？…どうか、そういったことを、今一度、よく考えてくださいますように、お願いいたします。

イエス様は、皆さんのことを愛し、皆さんを救って、皆さんが本当の価値ある人生を歩むことができるように、この地上に来てくださっただけでなく…、あの忌まわしい十字架にまでかかって、あなたへの愛を全うしてくださいました…。そこで、本当の意味で、このクリスマスの意義を知り…、このクリスマスをお祝いするために必要なことは、あなたが、ご自分の罪を悔い改めて…、このイエス様のことを信じ受け入れる以外に方法はありません。どうぞ、クリスマスの、この時期に、あなたがイエス様を信じて…、永遠のいのちと本物の価値ある人生を、あなたが受け取ってくださいますことを、心からお勧めいたします。

IV・これが、あなたがたのためのしるしです！

最後に、どうぞ、今日のみことばの12節をご覧ください。そこで、御使いは、『あなたがたは、布にくるまわって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです。』ということを教えてくれています。このように、天の神様は、私たちに、何らかの“しるし”を与えて…、そういったものでさえ用いてくださるような御方なのです。

イエス様がお生まれになってくださった時、何と、ヨセフとマリヤたちには、泊まるべき部屋を見つけることができずでした…。よく、降誕劇で表現されてあるように、イエス様が、汚らしいと言うか、あまり、衛生的ではない家畜小屋でお生まれになったことは、明らかです。…と言いますのも、今日のみことばの少し前、ルカ 2:7 には、『男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らがいる場所がなかったからである。』と記されてあるからです。

正直言って、親の気持ちを考えると、家畜小屋で赤ちゃんを産むことも、また、生まれたばかりの赤ちゃんを、家畜のイサを入れるための『飼葉おけ』に寝かせることも、したくなかったでしょう。…でも、それこそが、神様の御導きであり…、神様のみことばであったのです。ひょっとしたら、この時、ベツレヘムには、生まれて間もない、小さな赤ちゃんが複数居たかも知れません。しかし、羊飼いたちは、一発で、約束の救い主を見分けることができました。…と言うのは、御使いが、「約束の救い主として生まれてきてくださった御方は、『飼葉おけに寝ておられる…』という特徴を、予め、教えてくれたからです。このようにして、神様は、羊飼いたちのことを、イエス様のところへと導いてくださったのです！

さて、天の神様は、このようにして、私たちのことを導き…、私たちを通して、神様のみことばというものをなしてくださいませ。ひょっとしたら、皆さんにも、何か、人とは変わったような特徴が無いでしょうか？ひょっとしたら、それは、世間一般的には、何らかの障害とか…、あるいは、弱点とか…、何か悪いもののように評価されているのかも知れません。でも、天の神様には、そんなこと関係ありません！だって、神様の前には、如何なる、障害も、また、どんな弱点も、必要であれば変えることができるし…、神様は、そういったものを用いて、どんなことでも御出来になるからです！そうじゃないでしょうか？

正直、私だって、そうです…。かつての私は、人前で話すことが1番嫌いでした。今でも、人前で話すことが、苦手で、あまり得意ではありませんけれども…、でも、神様は、こんな私でさえ、今の働きに召してくださいました。私は、今でも時々、他の教会の牧師先生のメッセージを聴いたりしますが、私のように「どもり癖のある牧師」なんて、ほとんど聞いたことがありません。でも、だからこそ、ひょっとしたら、そこに、私の特徴があるわけで…、こんな私が、そこまでして何を話すのか？ということになるのかも知れません。

皆さんだって、そうです！例えば、あのパウロは、自分の肉体の病が癒されることを願いましたが…、でも、神様からの答えは、どうでした？⇒『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである』って…。その後、パウロは、こう続けます、『ですから、私は、キリストの力が私をおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。』って…(Ⅱコリント 12:9-10)。

皆さんだって、多分、いろいろなハンディキャップや弱点…、あるいは、様々な問題を抱えておられることだと思います。ひょっとしたら、そういったことがあって、なかなか、神様に仕えることができない…、奉仕をすることができない、ということがあるのかも知れません。でも、神様は、すべてを御存知です。神様は、すべてを御存知の上で、皆さんに、今の問題を与えておられるのではないのでしょうか？どうか、「自分には、できっこない…。どうせ、私なんか…」ではなくて、どう生きることが、神様に喜ばれるか？本当の、自分が何をしたいのか？…ということを考えて、今後も、歩み続けていっていただきたいと思えます。

<励ましの言葉>

この後、私たちは、讃美歌の121番を賛美いたします。この教会の皆さんはご存知ですが、この讃美歌121番は、一見、クリスマスソングのように見えて、実は、そうではありません。…にも関わらず、私が毎年、この曲を、クリスマス集会の時、要所要所で選んでいるのは、私たちが伝えたいメッセージが、「救い主は生まれてきてくださった！」というだけではないからです。救い主として来てくださったイエス様は、私たちのために生き…、私たちにたくさんを教え…、そして、私たちのために、すべてを犠牲にして、あの十字架へとかかり…。約束通り、3日目によみがえることによって、私たちに救いの道を備えてくださいました。イエス様は、私たちが絶対に勝利することのできない死に対しても、打ち勝つてくださったのです！

あとは、あなたが、自分の罪を悔い改めて…、このイエス様を、真の神&あなたの救い主として信じ迎えてくださるだけです。願わくは、今日が、あなたにとって、「救いの日」となることを、心から願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます…。